

出土例を中心として」、宮瀧交二「東国集落と墨書行為」、大川原竜一・山路直充「古代の墨」、岩宮隆司「末端文書行政の実態（１）－籍帳の作成過程をめぐって－」、樋口知志「末端文書行政の実態（２）－地方における荷札木簡の記載をめぐって－」の９本で、参加者は、地方公共団体の職員、大学・博物館関係者等で１００人余りでした。

討議では、陶硯の器種・法量の違いが使用者の階層や遺跡の性格を反映するものか否か、転用硯の機能と定形硯との使い分けの有無、朱墨の形状や朱墨用途、墨の在地生産・流通と地方における墨利用者との関係、郷段階での文書作成の実態、地理的環境と木簡記載のあり方などが主な論点となりました。

討議の中では５０倍ルーペによる転用硯の識別など有益な観察方法が示されたり、関東では定形硯は官衙か郡司居宅などに限定され、地方官衙識別の指標となりうることなど興味ある指摘もありました。

また、今回は、平城宮跡発掘調査部考古第二調査室の協力によって平城宮・京出土の陶硯の遺物も展示し、その遺物観察による休憩時の議論も活発で、情報交換に大いに寄与することができました。

（埋蔵文化財センター 山中敏史）

飛鳥・藤原京展

奈良文化財研究所創立５０周年を記念して開催した「飛鳥・藤原京展」は２００３年３月９日をもって全ての会期を終了しました。２００２年６月１日に大阪歴史博物館から始まり、東京都美術館、東北歴史博物館、そして四日市市立博物館と、約１０ヶ月の長期にわたる巡回展でした。どの会場も活気が満ちあふれ、来館者は合計１６万人を超え、盛況のうちに無事終えることができました。設置したアンケートでは、「よくまとめられており、興味深かった」「壮大な歴史の姿に感動した」という声も聞かれ、一人でも多くの方に古代のロマンにふれていただきたいと願っていた我々も喜ばしいかぎりです。この展覧会を開催するにあたって、慣れぬ展示作業に戸惑う点も多くありましたが、研究成果の公開普及活動の大切さを実感しました。この展覧会を機会に、奈文研の研究活動の理解者が増え、そして何よりも飛鳥・藤原宮跡を訪れる人が増えることを願っています。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 奥村直紀）

お知らせ

飛鳥資料館 春期特別展

ASUKA 1/500

—「飛鳥・藤原京展」帰還展—

開催期間：平成１５年４月２２日（火）～６月１日（日）
《会期中無休》

開館時間：９時～１６時３０分 《入館は１６時まで》

入場料：		大人	高・大学生
	個人	２６０円	１３０円
	団体	１７０円	６０円
中学生以下は無料			

アクセス：近鉄橿原神宮前駅からバス岡寺前行
「飛鳥大仏前」下車徒歩１０分
近鉄・ＪＲ桜井駅からバス岡寺前行
「飛鳥資料館」下車

所在地：奈良県高市郡明日香村奥山６０１
奈良文化財研究所飛鳥資料館
電話 ０７４４－５４－３５６１



飛鳥中心部復元模型

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所
Ｅメール jimu@nabunken.go.jp
<http://www.nabunken.jp>